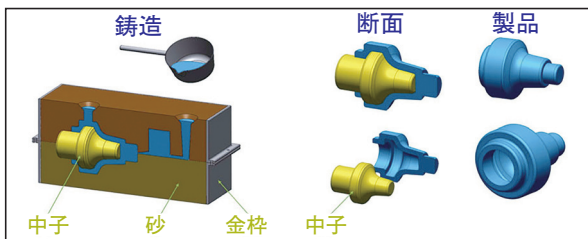


なかご シェル中子の製造で顧客の期待値を超える

大谷シェル株式会社 奈良県桜井市

■シェル中子を作り続けて半世紀

鋳物メーカーが内部に空洞がある鋳造品を製造する際、空洞にあたる部分に砂の塊（中子）をセットし、その周りに溶かした金属を流し込み、冷やし固めると、砂の周りを覆う形の鋳造品ができ、最終的にはその中子を砕くことによって鋳造品が完成する。



大谷シェル株式会社は創業から半世紀以上、鋳物メーカー（二次メーカー）の下請けとなる三次メーカーとして、特に技術やノウハウが必要となる難易度の高い油圧機器向けシェル中子の製造を強みとして、3代目の大谷章也社長へとバトンが渡されている。

■ロボット導入で効率化を進める

シェル中子は、鋳造品の製造のみに使用されるニッチな製品であり、製造する会社は全国的に少ないため、一旦、鋳物メーカーとの取引が始まるとその関係性は強くなる。このような業界の特色もあり、2015年頃まで同社の売上は全て1社との取引で成り立っていた。

大谷社長はこの状況に危機感を覚え、販売先の新規開拓に取り組んだが、他社同士の強固な関係に阻まれ、ほぼ1社取引の状況が続いた。

そこで、売上を伸ばすことよりも、利益率改善による業績伸展を図る方針に転換した。生産効率を高めるため、当初困難と見られていた産業用ロボットの活用に着目し、大谷社長自ら何度も試行錯誤を重ねた結果、実用化に成功し利益率改善につながった。

■コロナ禍で陥った窮地と人の縁

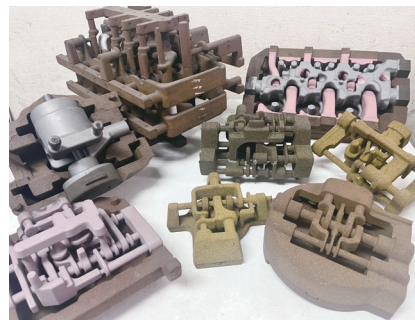
産業用ロボットの活用で生産の効率化は図れたが、コロナ禍により二次メーカーが奈良での鋳物製造から撤退したため、ほぼ1社取引という状況であった同社は売上の大部分を失い窮地に立たされた。

必死に新たな販売先を模索するなか、大谷社長は「撤退する二次メーカーが製造していた製品は、一次メーカーが別の二次メーカーへ発注しているはずだ」と考え、一次メーカーへ直接掛け合った。

社長の真摯な営業姿勢が一次メーカーの担当者の心を掴み、二次メーカーを紹介してもらった結果、紆余曲折はあったが、最終的に新たな二次メーカー2社との取引が成立し、売上はコロナ禍前の水準まで回復した。

「今まで“顧客の期待値を超える”という理念を最も大切にしてきたが、自社の努力だけでは乗り切れそうにない窮地に陥った。窮地を脱したのは、様々な方々の善意など人の縁のおかげである。その人々に恩返しをするために、これからも期待値を超えつつ、双方にとって良い取引を継続していきたい。」と熱く語る大谷社長の目はこれからの同社と取引先の成功を見据えていた。

（藤岡奨太）



同社製品のシェル中子

大谷シェル株式会社

〒633-0107 奈良県桜井市中谷 524
TEL : 0744-48-8686
FAX : 0744-48-8818
URL : <https://www.otani-shell.co.jp/>



大谷章也 社長